

令和2年度 学校評価 集計の結果と来年度への取り組み

たむら支援学校

今年度の学校評価アンケートの結果がまとまりましたので、以下の通りご報告いたします。保護者及び学校評議員の皆様には、お忙しい中ご協力をいただき誠にありがとうございました。

今回の結果を受け課題となる項目については、担当部署を中心に学校全体で改善に向けて具体的な方策を検討し、次年度の計画と実践に生かして参ります。

また、中学部・高等部の生徒を対象に実施した学習や学校生活に関するアンケートの結果や意見についても丁寧に対応して参ります。

【評価基準】	【回答者数】
A とてもよくできている、とてもよくあてはまる	(小学部)保護者 34人 教員 24人
B よくできている、よくあてはまる	(中学部)保護者 13人 教員 11人
C あまりできていない、あまりあてはまらない	(高等部)保護者 34人 教員 21人
D できていない、あてはまらない	《評議員5人》 《保護者 81人》 《教員56人》 《合計 142人》

取り組みの柱(1) 「ことばの力」に視点を当てた、「わかる」「できる」「いきる」授業づくりを行います。

①児童生徒の「ことばの力」を的確に捉え、実態に応じた言語環境を整えます。

質問1 学校は、児童生徒一人一人の実態に応じて、コミュニケーションの基礎的な力を育んだり、意思のやり取りをしたりするための環境を整えていますか？

質問1		A	B	C	D
学校全体	保護者	54	26	1	0
	評価割合	67%	32%	1%	0%
	教員	18	37	1	0
	評価割合	32%	66%	2%	0%
学校評議員 (5人)		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

②「学びの履歴」を基に各教科等の指導を工夫し、体験的な活動を取り入れながら、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくりに努めます。

質問2 学校は、体験的な活動を取り入れながら、児童生徒が興味・関心をもって意欲的に取り組める授業づくりを行っていますか？

質問2		A	B	C	D
学校全体	保護者	62	17	2	0
	評価割合	77%	21%	2%	0%
	教員	17	39	0	0
	評価割合	30%	70%	0%	0%
学校評議員 (5人)		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

質問3 学校は、児童生徒が人やものとの関わりを通して自分の思いや考えを広げ、学び合う授業づくりを行っていますか？

質問3		A	B	C	D
学校全体	保護者	55	25	1	0
	評価割合	68%	31%	1%	0%
	教員	12	43	1	0
	評価割合	21%	77%	2%	0%
学校評議員（5人）		2	3	0	0
		40%	60%	0%	0%

③教員同士が学び合う研修を実施し、教員の専門性の向上を図ります。

質問4 学校は、教員同士が学び合う研修を実施し、教員の専門性の向上に努めていますか？

質問4		A	B	C	D
学校全体	保護者	47	32	1	1
	評価割合	58%	40%	1%	1%
	教員	24	32	0	0
	評価割合	43%	57%	0%	0%
学校評議員（5人）		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

取り組みの柱（1）

【分析】

- 全ての項目において「A」または「B」評価が95%以上で、概ね良好な評価となりました。
- 質問2については、保護者の2%が「C」評価となっており、さらに、児童生徒が興味関心をもって意欲的に取り組める授業づくりが求められていると考えます。
- 質問4については、保護者の2%が「C」「D」評価となっており、各研修やその取り組みの様子について、丁寧に伝えていく必要があると考えます。

【今後の取り組み】

- 今後も児童生徒一人一人の実態に応じた言語環境を整えるとともに、自分の思いや考えを「伝える力」を育成するための取り組みを行います。
- 「学びの履歴」及び「個別の指導計画」を基に各教科等の指導を工夫し、児童生徒が興味関心をもって意欲的に取り組める授業づくりを行います。
- 今年度、研修計画を基に実践研究や事例検討、外部講師を招聘した研修会等、様々な研修を実施し、専門性の向上に努めてきました。今後も継続して取り組み、研修会の様子等をホームページや通信等でお知らせしていきます。

【生徒のアンケート結果から】

生徒からは、「学校の授業は分かりやすい。」「学習や活動に一生懸命に取り組んでいる。」との回答が多く得られました。その反面、自分の気持ちや考えを話したり、友だちと協力したりすることについて、あまりできていないと答える生徒もいました。今後も児童生徒が思いや考えを伝えたり、共に活動したりすることができる学びの場面や活動の設定に努めます。

取り組みの柱(2) 「自分のよさ」に気付き、学んだことを生活にいかすことができるよう「生活にいきる力」を育てます。

④「児童生徒のよさ」を明確にした個別の教育支援計画と「児童生徒の学習上又は生活上の困難さの改善」に基づく個別の指導計画を基に、指導の充実を図ります。

質問5 学校は、生活にいきる力を身に付けることを目標にした個別の指導計画を基に、児童生徒一人一人に応じた指導を行っていますか？

質問5		A	B	C	D
学校 全体	保護者	57	23	0	1
	評価割合	70%	28%	0%	1%
	教員	22	34	0	0
	評価割合	39%	61%	0%	0%
学校評議員(5人)		3	1	0	0
		60%	20%	0%	0%

※無回答(学校評議員1)

⑤安心・安全な環境を整えるとともに、健康・安全指導及び生徒指導の充実を図ります。

質問6 学校は、児童生徒が安心・安全な学校生活を送るための環境を整えていますか？

質問6		A	B	C	D
学校 全体	保護者	63	16	2	0
	評価割合	78%	20%	2%	0%
	教員	25	30	1	0
	評価割合	45%	54%	2%	0
学校評議員(5人)		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

質問7 学校は、児童生徒の発達段階に応じて健康・安全指導及び生徒指導を行っていますか？

質問7		A	B	C	D
学校 全体	保護者	57	23	1	0
	評価割合	70%	28%	1%	0%
	教員	16	40	0	0
	評価割合	29%	71%	0%	0%
学校評議員(5人)		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

⑥社会生活にいきる力を育てる「キャリア教育」の充実を図ります。

質問8 学校は、児童生徒一人一人の実態に応じて、将来の社会生活に必要な力の育成を段階的・継続的に行っていますか？

質問8		A	B	C	D
学校 全体	保護者	51	26	3	1
	評価割合	63%	32%	4%	1%
	教員	18	38	0	0
	評価割合	32%	68%	0%	0
学校評議員(5人)		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

取り組みの柱（2）

【分析】

- 全ての項目において、保護者及び教員の95%以上が「A」または「B」評価で、概ね良好な評価となりました。
- 質問5については、保護者の1%が「D」評価となっており、生活にいきる力を身に付けるための指導の充実が求められていると考えます。また、学校評議員の無回答については、「個別の指導計画を基にした指導」について判断することが難しいとのご指摘をいただきました。今後、質問内容を工夫して適切に回答いただけるように改善いたします。
- 質問6については、保護者及び教員の2%が「C」評価としており、今年度は特に、新型コロナウイルス感染防止対策や事故防止への関心が高いためであると考えます。
- 質問8については、保護者の5%が「C」「D」評価となっており、将来の社会生活に必要な力の育成について、さらに指導の充実が求められています。また、日々の授業における指導がキャリア教育につながっていることについて、共通理解を図っていく必要があると考えます。

【今後の取り組み】

- 感染防止対策を徹底するとともに、校舎内外の危険箇所の点検を実施し、安心・安全な学校生活を送るための環境整備を行います。また、その取り組みの様子について、ホームページや通信等でお知らせしていきます。
- 引き続き新しい生活様式を取り入れながら、児童生徒の実態に応じた食育や運動等の安全・健康指導及び発達段階に応じた生徒指導の充実に努めるとともに、その取り組みの様子について、ホームページや通信等でお知らせしていきます。
- キャリア教育における各学部の取り組みについて、教員間で周知するとともに、進路の手引きの活用や進路だより等を通して保護者にお知らせし、共通理解を図りながら取り組みを進めます。

【生徒のアンケート結果から】

生徒からは、「健康や安全、きまり及び働くための学習を頑張っている。」との意見が多く聞かれました。一方、「学校で学んだことを生活の中でも行っているか」の項目でCまたはD評価の生徒もいました。今後も、児童生徒一人一人の実態に応じて「生活にいきる力」の育成に努めて参ります。

取り組みの柱（3） 保護者や地域と共に歩む学校を作ります。

⑦保護者や関係機関と連携した個別の教育支援計画の活用と啓発を図ります。

質問9 学校は、保護者や関係機関と連携した個別の教育支援計画を活用するための方法について分かりやすく説明をしていますか？

質問9		A	B	C	D
学校 全体	保護者	50	30	1	0
	評価割合	62%	37%	1%	0%
	教員	16	38	2	0
	評価割合	29%	68%	4%	0%
学校評議員（5人）		4	1	0	0
		80%	20%	0%	0%

⑧地域支援センター「ゆめここ」を拠点として、校内外の支援の充実を図ります。

質問10 学校は、校内の児童生徒や地域の幼児児童生徒・学校の様々なニーズに応じて、相談や支援を行っていると思いますか？

質問10		A	B	C	D
学校	保護者	47	32	1	1
	評価割合	58%	40%	1%	1%
学校全体	教員	22	33	1	0
	評価割合	39%	59%	2%	0%
学校評議員 (5人)		3	2	0	0
		60%	40%	0%	0%

⑨地域に貢献するとともに、地域の資源を有効に活用した交流及び共同学習の充実を図ります。

質問11 学校は、地域の公共施設の活用や小学校、中学校、高等学校との連携を図りながら、交流及び共同学習を行っていますか？

質問11		A	B	C	D
学校	保護者	48	30	3	0
	評価割合	59%	37%	4%	0%
学校全体	教員	15	40	1	0
	評価割合	27%	71%	2%	0%
学校評議員 (5人)		2	3	0	0
		40%	60%	0%	0%

取り組みの柱(3)

【分析】

- 全ての項目において「A」または「B」評価が95%以上で、概ね良好な評価となりました。
- 質問9については、教員の4%が「C」評価となっており、感染症対策のため、年度始めの個別懇談等で十分な時間が取れなかったり、相談支援ファイルの活用が不十分だったことが理由としてあげられます。
- 質問10については、保護者の2%が「C」「D」評価となりました。全学部の児童生徒への相談や支援の充実を図るとともに、地域支援センター「ゆめここ」の取り組みについて、今後も積極的に発信していく必要があると考えます。
- 質問11については、保護者の4%が「C」評価となっており、今年度はコロナ感染症のため、交流及び共同学習は規模を縮小して実施していることが理由としてあげられます。

【今後の取り組み】

- 相談支援ファイルの活用場面や活用方法について、教育相談等において保護者に説明し活用を図るとともに、個別の教育支援計画を通して、児童生徒一人一人の「将来」を見据えた目標について保護者と共通理解を図りながら支援・指導を行っていきます。
- 地域支援センターの取り組みについて、教員間の共通理解を図るとともに、ホームページや地域支援センターだよりで、保護者及び地域に積極的に発信します。
- 交流及び共同学習について、今年度は感染症予防対策のため規模を縮小して実施しました。今後も児童生徒の健康を十分に配慮し、活動内容を工夫しながら進めていきます。

【生徒のアンケート結果から】

多くの生徒が「A」または「B」の評価となっていました。その中で「困っているときに相談したい。」という意見も聞かれました。今後も児童生徒一人一人に丁寧に対応していきます。